

「国頭小学校の国頭ヤッコ・仲里節伝承活動の取組」

1 学校名

和泊町立国頭小学校

2 学年・人数

全学年 67人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年6月～平成31年2月 総合的な学習の時間・創意的な活動

(本校教室棟1階オープンスペース, 体育館, 運動場)

平成30年9月8日(土) 運動会リハーサル(本校運動場)

平成31年2月8日(金) 発表会リハーサル(和泊町やすらぎ館)

(2) 発表の日時・場所

平成30年10月2日(火) 秋季大運動会(本校運動場)

平成31年2月10日(日) 子ども芸能発表会(和泊町やすらぎ館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

国頭ヤッコ(くにながみやっこ), 仲里節(なかざとぶし)

(2) 由来(平成20年発行「国頭芸能のあゆみ」より一部抜粋)

国頭ヤッコは、今から400年前に琉球から渡ってきたものと思われる。

とても踊り好きの人が沖縄に渡って習い覚えた四つの踊りがユーモアたっぷりなひょうきんだったので、これらを組み合わせるとヤッコと名付けた。

仲里節は、「琉歌百控」に久米島仲里間切に起こった歌とあるが、伊平屋島の仲里説、仲島とする説もある。日頃、琉球の民謡と踊りを見て稽古に意欲を燃やしていた人が、琉球の人々の中に入って踊られた中の一曲である。

(3) 構成等

国頭ヤッコは、2組に分かれて舞台の左右から登場し、前後に列で踊り、それぞれ出てきた方向と反対側に引っ込む。これを4つの踊りごとに繰り返す。踊る人数は特に限定されず、ステージの広さによって調整する。頭に鉢巻、紋付袴を伊達巻で着衣し、白布でたすきをかける。足は白黒の脚絆で巻き、黒い足袋をはく。仲里節は、女性4人1組で四ッ竹を両手に持って踊る。踊りは4番まであり、一曲ごとに隊形を変えて踊るのが特徴的である。

5 保存会や地域との連携の具体

郷土芸能である「ヤッコ」「仲里節」は昭和45年から郷土教育の一環として学校教育の中に取り入れられたことに始まり、連綿と続いているものである。踊りは、国頭芸能振興会の皆さんが指導して下さる。練習は、学校の総合的な学習の時間(3～6年)や創意の時間に位置付け、年間を通じて計画的に行っている。夏休み期間後半、ラジオ体操実施後にも実施している。大運動会では、男子全員で「ヤッコ」を踊り、女子全員で「仲里節」を踊る。その際、保護者や地域の方も踊りに加わり、大いに盛り上がる。地域行事の敬老会でも、4～6年児童が毎年この踊りを披露し、地域の高齢者の方々にも喜んでいただ

いている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

郷土芸能の伝承活動の時間を確保するために、踊りの練習時間を学校の教育課程に位置付けた。また、大運動会前は、保護者と合同のリハーサルの時間を設定し、大運動会当日の発表がスムーズに進むようにしている。さらに、学校のクラブ活動の一つである「三味線クラブ」、同好者で組織する「三味線教室」もあり、児童（3年生以上）だけでなく、本校職員も所属し、沖永良部や国頭に伝わる郷土芸能の保存・伝承に努めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【参加児童】

「ヤッコ」「仲里節」は、かなり昔から行われていると聞きました。ぼくは、最初ヤッコを踊るとき、難しそうだなと思っていましたが、運動会や敬老会などで踊るうちに、だんだん分かってきました。ぼくは、ヤッコの4番が苦手です。動きが早くて難しいからです。運動会のときは、公民館と違って広いので、踊りと踊りの間の移動が大変でした。ぼくは、小学生の中では踊れる方だと思います。後ろにお父さんたちがいて緊張するけど、踊れます。「伝統芸能」というものは、必ずなくてはならないものだと思うので、ぼくも続けていきたいと思っています。

【芸能振興会（保存会）】

国頭が平成4年に「むらづくり日本一」になったのは、「多くの審査項目の中で、豊かな芸能文化があり、それらが次代を担う子どもたちに継承されているからである」と審査員が評していた。運動会で大人と一体となった全男子児童の「ヤッコ」、全女子児童の「仲里節」の踊りは、見る人に大きな感動を与えている。

【教員】

国頭の伝統芸能について学ぶ機会をいただき、地域の方々と触れ合う中で、伝統芸能継承への御尽力の大きさを直接肌で感じる日々です。地域の敬老会やお祝いの席などで、老若男女が踊り興じる姿を拝見する度に、その素晴らしさとともに、次代を担う本校児童が国頭の伝統芸能を伝承する重要性をひしひしと感じます。